

一般国道13号(東北中央自動車道) 真室川雄勝道路説明資料

国土交通省 東北地方整備局

平成29年3月7日

一般国道13号（東北中央自動車道）真室川雄勝道路に係る新規事業採択時評価

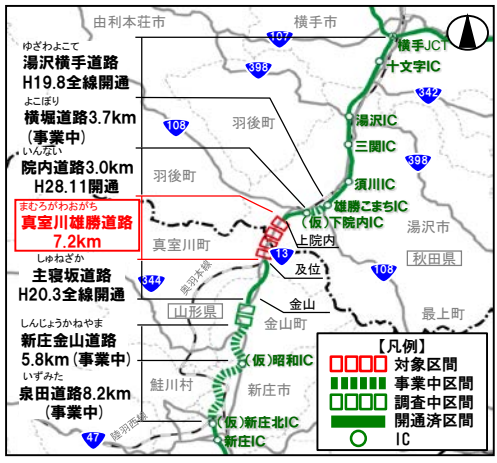
まむろがわ おがち

- ・不定期に頻発する雪崩・落雪予防作業による交通機能低下などの課題が山積する豪雪地域において、雪に強いネットワークを構築。
- ・信頼性の高い道路ネットワークが延伸されることで、速達性や定時性が確保され、地域連携強化による周遊観光を支援。

1. 事業概要

- ・起終点：山形県最上郡真室川町大字及位
～秋田県湯沢市上院内
- ・延長等：7.2km
(第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費：約247億円
- ・計画交通量：約6,200台/日

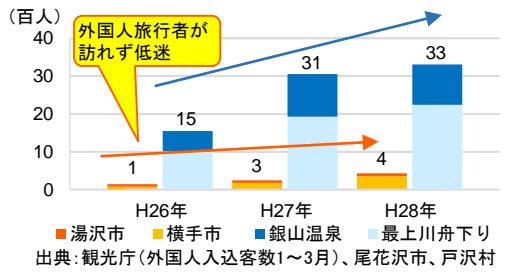
乗用車	小型貨物	普通貨物
約2,400台/日	約600台/日	約3,200台/日



②冬期の周遊観光に不可欠な高速道路ネットワーク

・秋田県は冬期観光が低迷しており、近隣県と連携し、冬の魅力をテーマとした観光誘客に取り組んでいるが、主要な経路である国道13号は、冬期の定時性が確保できず、旅行行程の遅延に懸念。【図6】【図7】

・山形県、秋田県の連携強化による冬期周遊観光の支援のため、道路ネットワークの構築が必要。



・舟下りが終わり、お客様から周辺の観光地を聞かれ、隣の秋田県を紹介する際に、道路の移動時間が掛かることを説明すると、行くのはやめようになってしまう。
[最上舟下り業者]

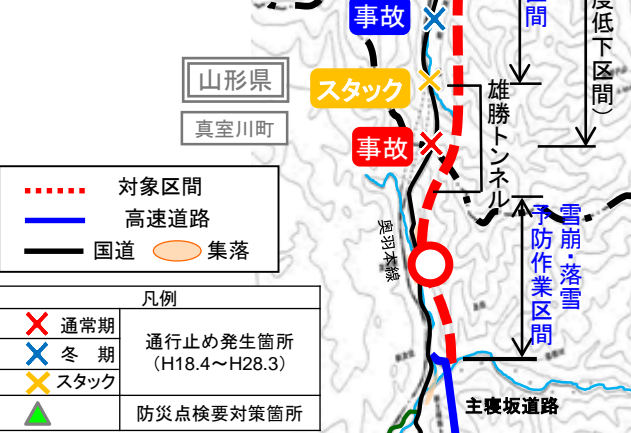
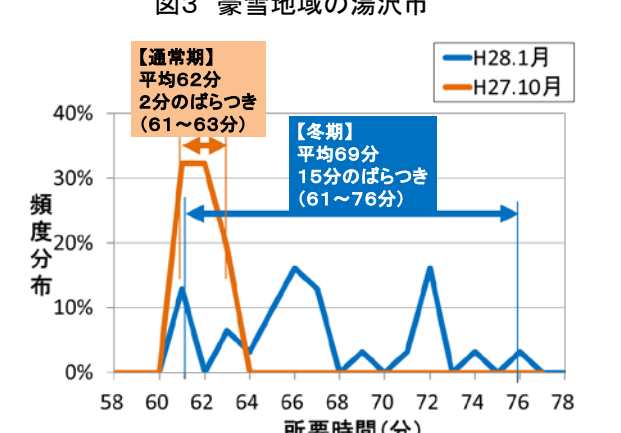
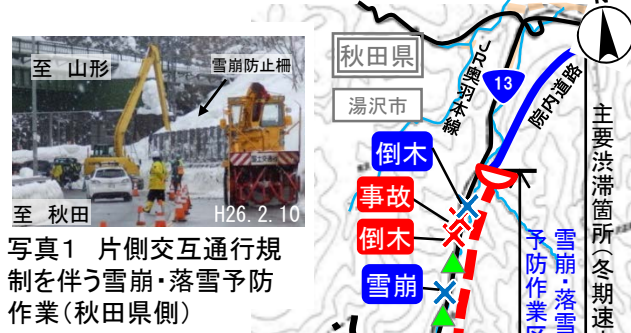
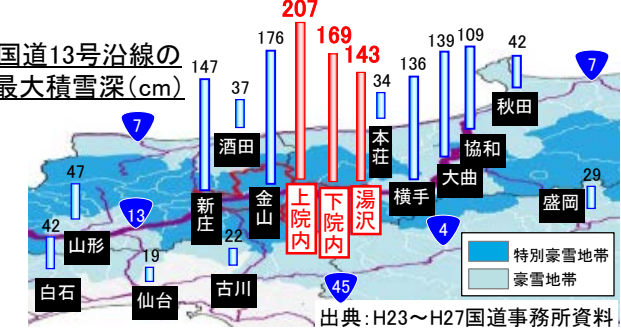
・冬は積雪が多く、新庄湯沢間は通りたいくないため、ツアーを組みにくい。安全に走れるようになれば、新たな商品を用意したい。
[秋田県内旅行者]



2. 課題

①積雪期の著しい交通機能の低下

- ・当地域は、全域が特別豪雪地帯に指定される東北有数の豪雪地帯。【図3】
 - ・当区間は東北管内で112号月山に次ぎ、雪崩・落雪予防作業※の交通規制等を実施しており、移動時間の遅れやバラツキが発生。(平均年間52回、延べ158時間発生)【写真1】【図4】【図5】
 - ・また、当該路線は、県境を跨いだ通勤・買い物等や両県間を行き来する産業等、両県の社会経済活動を支える路線であるが、雪崩等による通行止め発生時は、迂回路が周辺にないため、広域迂回を強いられ、地域への影響が非常に大きい。【東北管内1位の迂回率】
- ※ 雪崩・落雪予防作業とは・・・のり面やトンネル出入口にしたいに雪が溜まり、道路に落下する危険性があるため、定期的に取り除く作業



3. 整備効果

効果1 積雪期の交通機能の改善 [◎]

- ・速達性、定時性の確保、広域迂回の解消により、冬期の走行環境が改善され、山形県、秋田県間の生活・産業を支援。
- 【速達性の向上】新庄市～湯沢市
 - ・通常期：現況62分→整備後(全線開通)48分(14分短縮)
 - ・冬期：現況69分→整備後(全線開通)50分(19分短縮)
- 【広域迂回の解消】新庄市～湯沢市
 - ・現況(広域迂回時)：115km 120分
 - 整備後(真室川雄勝利用)：60km 48分(約6割減少)

効果2 地域連携強化による冬期周遊観光を支援 [◎]

- 【インバウンド観光の推進】
- ・外国人延べ宿泊者数 H31目標 10万人泊(秋田県)
- ・外国人延べ宿泊者数 H31目標 18万人泊(山形県)



費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用	総便益
1.6 (1.4)	7.2% (6.2%)	691億円※2 (202億円※2)	1,101億円※2 (285億円※2)

注) 上段の値は新庄IC～横手JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果
※1: EIRR: 経済的內部収益率
※2: 基準年(H28年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度(防災機能)		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
9 (3)	1.00 [D]	0.31 [B]	▲46.02 (▲1.97)	0.11 (0.01)	0.78 (0.67)	◎

注) 上段の値は新庄IC～横手JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果

